



発行所 地方会ニュース編集事務局  
 〒 470-11  
 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98  
 藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教  
 室内 電話 (0562) 93-2453  
 FAX (0562) 93-3079  
 発行責任者 竹内康浩・島 正吾

(題字 皿井 進筆)



「共存共栄」(オランダ キューケンホフ チューリップ公園の池にて)

## 野の草に想う

村山 尚子 (労働衛生コンサルタント)



平成9年の新春を迎え、会員皆様方の御健勝を心からお慶び申し上げます。今年こそはすべてが平穏な年であります様に。

企業の産業医という殻から脱皮して一年半が過ぎた。今はささやかな診療所でお年寄りや殆んど患者さんとお付き合いしている。

それから、父母が遺してくれた旧い家をお子

達に譲る日まで、御近所に迷惑かけない様に維持する仕事が増えた。今まで気にもかけなかった庭木の手当てが問題である。家の外の公道に遠慮なく散ってくれる生け垣の珊瑚樹には恐れ入っている。5月過ぎ、秋冬に散った枯葉の下から、そこそこに細い針の様な若草が次々と伸び出、可愛らしい二葉の若芽は何になるかなと半ば楽しんでるうちに「かやつり草」や「おひしば」等稲科の野草とか、「かたばみ」や「はこべ」の仲間と分ってきた時には、庭の土が殆んど隠れる程に生い茂っていた。以前から「どくだみ」と「おおぼこ」の存在には気付いていたのでこれだけは増やして採取するつもりで、夏のかかりから草取りを始めた。汗だくになってせせと抜いたおかげで大分きれいになった。雑用に追われ3週間程した或る

日、「おおぼこ」の育ちはと庭に出てあっと驚いた。何と今度は「露草」や「いぬたで」、「こにしき草」に「すぎな」等ところ狭しとばかりに茂りだしている。おまけに端の方では「やぶがらし」が椿や南天にからみついて、「芍薬」は葉の一部が枯れかけていた。再度草取りに挑戦したが、夏以来草を抜き乍ら私はしきりに想った。この野草達も懸命に生きようとしているのだと。しかし私はゴメンネと云い乍ら根っこからこの草を取り除いている。そして次第に人間社会での競争に思い至る。不況の中で生き残る為の熾烈な戦。世界の至る処で宗教上の、民族間の、経済上の等々悲しい争いがとめどなく続いている。善良な市民の血が今日も何処かで流れているのでは、一見平和の連続と思われている我が国でも何となく一触即発の不安が渦巻いている気が。中小企業への皺寄せは年毎に増大との事。家族を抱え決して良い条件ではないと思われる職場で、只黙々と働き続ける方々。何となく、可憐な花を咲かせ乍ら精一杯繁ろうとしている野の草達の姿と重なり合って何時しか草抜く手先の力が鈍る。何故に生きとし生けるもの同志、お互いに少しづつ譲り合って、仲良く共に生きては行けないのであろうか。みんな、みんなこの地球に、同じ時を生きると云うのに。

# 新春随想

## 21世紀へ



**宮尾 克**  
(名大大学院多元数理科学)

あけましておめでとうございます。昨年4月、私は名大公衆衛生から名大大学院多元数理科学研究科に移りました。ここは理学部数学科が母体で平成7年4月に創設されました。数学を中心に医学、言語学、経済学、法律・

行政学、生物学、物理学など多面的な独立大学院です。学問のはじまりである数学は、歴史的にインドで0（ゼロ）が発見されて発展し、ギリシャ、ローマからフランスへ、やがてイギリスの産業革命から、アメリカでコンピュータ科学へと、地球を西へまわりました。次は日本だという熱意で、純粋数学のみならず、数理科学的に自然・人文・社会科学を包含してできました。私は、昼夜開講（実は夜だけ）の社会人コースで、保健婦など96年度1名、97年度約5名の修士学生を受け入れて担当教授として指導します。

私の研究はこれまで、職場の健康管理など労働衛生、乳児死亡など母子保健、肥満・屈折・色覚など学校保健、愛知県の子ども病院づくりと保健所など地域保健、スギ花粉症と大気汚染など環境保健、と幅広く行ってきました。研究方法としては、一つは生体と環境の相互作用の解析、とくにコンピュータ環境で、もう一つは医学統計学の手法ですが、今後も基本は同じです。

インターネットが流行し、日本のコンピュータ生産は昨年1年で800万台にも上りそうです。職場・学校・家庭でもコンピュータを前提にしたライフスタイルになりつつあります。人間生活のこれほどの変化と健康との関連は重要な研究対象だと思います。立体画像やHMD（ヘッドマウンティッド・ディスプレイ）を含むバーチャル・リアリティ（仮想現実）は、新技術がもたらす問題の根幹なので、今年はこの分野で研究を飛躍させたいと願っています。

## 初 夢



**井上 潔**  
(浜松労災病院産業衛生部)

縁あって、T大学で生物学や健康科学なるものを教えることになって半年がすぎました。医者にはならない若い人達に、教える立場で生物学を繙いてみて驚いた。医学は生物学の極く一部で（本当は殆ど重り合っていないけれども）、そのまた一部の内科、さらに消化器となると、専門とはいえないながらも狭い。しかも主として実務に頭をつっこんでいたのだと気がついて、今更ながら寒心のいたりです。

それでも、臨床医40年・産業衛生らしきものに関係して35年「古手の医者には出来ない生物学」を喋りたいと、勉強したり考えたり、うかうか齢をとっている暇もない有り様です。

そんなさなか、昨年10月「在外邦人医療相談」と言うことで、中国北部7都市を巡回してみ、**「水の問題」「寄生虫の問題」「途中帰国時健診の問題」**等幾分でも解決出来そうに思える問題で、現実困っておられる邦人の生活に接して、またまた道草を喰ってしまいました。

いま66歳の新春（青春？）に、22歳の春・44歳の春を振り返り、88歳ぐらいまでの予定で、その前半の10年ほどはやり残したことをもう少しやり、後半の10年ほどは少しのんびりしようかと夢を楽しんでいます。

——遠くで鬼の笑い声しきり——  
今後ともよろしくお願い致します。

## 平成9年元旦を迎えるにあたり



**鳥澤 重男**  
(岐阜産業保健推進センター所長)

新年明けましてお目出度うございます。

昨年労働安全衛生法の改正があり、労働者の健康保持、作業環境、労働衛生等に対する配慮が一段となされたことにより労働者の安全、衛生が更によりよい環境に置かれるようになったことは大変喜ばしいことであります。

この法の改正が実際に生かされ労働者のためにより良く活用されるか否かは産業医、保健婦、衛生管理者等は勿論、事業主も法の精神をよく理解し、それを実践することが出来るか否かにかかっていると思います。

特に産業医は自分の担当する事業所の内容をよく理解し、作業環境を知悉し、把握することにより労働障害による疾病或いは災害の予防等労働者のため最も必要と思われることを充分に自覚し実践することが望まれます。

少子高齢社会に於いて労働者の健康管理は益々重要性を増し、労働者が健康で作業能力を高めること即、企業の発展につながることを事業主の方々も充分にご理解いただきご協力を心から願います。

新年にあたり我が国の発展と皆様のご健勝を祈念致します。

## 生活指導について思うこと



**瀬 口 みち子** (松下電子部品)

母親業の傍ら、小さな内科診療所を開いて十余年経った一昨年、松阪肉で有名な松阪市にある松下電子部品の常勤産業医に転職いたしました。この工場は従業員約1500人の電子部品メーカーで、私と看護婦の二人きりの健康管理室ですが、日医の産業医講習会を受け

ただけの初心者にとって、戸惑うことの多い毎日です。職場巡視、安全衛生委員会、特殊健診といった産業医特有の業務も興味あるものですが、定期健診の結果分析や生活指導について力が入ってまいります。私共の工場でも従業員の高齢化に伴い、成人病が多くみられるようになってきております。中高年はもちろんのこと、三十代前半の従業員の中にも肥満、高血圧、高脂血症、脂肪肝、痛風などが多く見られ、重複有所見者が年々増加傾向にあります。成人病の成因にはライフスタイルが大きく関わっており、カロリー摂取や飲酒、喫煙などの制限、運動の奨励など生活指導はついお説教調になってまいります。THP活動の一環として、肥満者を対象にハイキングや食事療法勉強会なども健康管理室主導で行ってはおりますが、はたしてどれくらいの効果がみられるかは疑問です。各人の人生観や幸福の尺度は違いますから、私達医療関係者が理想と考えるライフスタイルを一律に押しつけることは問題なのかもしれません。私達にできることは自分の持っている健康情報を提供し、各人の生き方、人生の楽しみ方と折り合って無理なく続けられる健康的なライフスタイルを本人が見つけることをサポートすることだけかもしれません。そのためには広い視野を持つゆとりも要求されるでしょうし、相談相手から逆に教えられることも多いことと思います。健康管理、生活指導といった一方通行的な呼び方も時代と共に変わっていくのかもしれないなど考えるこの頃です。

## 平成8年度東海地方会学会を担当して

山内 徹 (三重大・医・公衆衛生)



平成8年度日本産業衛生学会東海地方会を、11月29日(金曜日)に三重県四日市市の「じばさん三重」で開催した。今年は、大学関係の研究者にはある程度のお骨折を頂いても産業医や産業看護婦等、現場のスタッフの参加に便宜を図る目的で金曜日を設定した。平成元年からの地方会ニュースを見る限りでは初

めての試みで、地方会理事会の御承認を頂いたとはいえ大きな賭けであった。そのようなことから参加者数のある程度の減少は覚悟していたが138名の参加でひとまず安堵した。今にも時雨そうな天候もあって参加者には午前の一般発表と午後の特別報告およびシンポジウムに最後まで熱心にご参加いただいた。

午前の一般発表は17題と例年より非常に少なかったのは、開催曜日の影響か、事務局の情宣活動が不十分であったためかもしれない。1会場でもできない数ではなかったが敢えて2会場に質疑応答、討論に十分な時間をとるようにしたところ、発表者、フロアの御協力と各座長の適切な進行によりその目的は一応果たすことが出来たと思う。

午後は竹内東海地方会会長のご挨拶ではじまり、まず「労働時間、交替制勤務に関する労働衛生学的課題」と題して小野雄一郎名大衛生学助教授に特別報告をお願いした。これは、「労働時間の短縮計画の進捗」や「多様化してきた交替制勤務」などの実情と健康管理面での課題について、実際にその研究を継続しておられる当地方会の中堅研究者にその成果を講演していただく企画であった。限られた講演時間で講師にも大変ご迷惑をお掛けしたが、諸外国との比較でわが国の実情を要領良く解説され、かつこれからの課題についても具体的に指摘され、歯切れのよい講演は参加者に多くの感銘と示

唆を与えてくださった。続いて、入谷辰男先生(トヨタ自動車産業医)の司会で「ワークスタイル・ライフスタイルと健康総合評価をめぐって」と題するシンポジウムを開催した。これは、当地方会で研究されてきた「健康度評価の意義と方法」をさらに発展的に捉えるために、戦後の労働衛生の課題の変遷を見据えつつ、地域保健すなわち成人・老人保健や精神保健等の各関連領域との間で個人の健康情報について如何に共通認識の元に把握し健康管理に生かしていくかを主題に、5人の演者に講演していただいた。フロアとの討論も活発になされた。このシンポジウムだけで一定の結論を得ることは困難であったが、個人の健康度評価と健康管理に関して関連領域が「共通語」を持つ、またその努力をする必要性は参加者に理解されたと思う。司会の入谷先生は「健康度評価研究会の拡大発展の基盤としたい」とこのシンポジウムをまとめられた。

最後に、開催日を金曜日にしたことに対する参加者の動向の変化を見てみた。医師のなかでは、産業医が28.3%(対全参加者数)で平成6の22.2%や同5の23.2%、同4の13%より多い。勤務医は8.6%で平成6の4.1%に次いで少なく、開業医は1.5%で近年のなかで最も少ない。研究教育職は22.5%ではほぼ例年なみであった。一方、保健婦看護婦が18%で平成6の15%を上回り平成4以降最も多かった。産業医や産業保健婦・看護婦の参加数を増やすという目的はかなり達成できたと言えるが、演題数の減少は予測を大きく越えるもので、曜日との関係については今後の学会長に御検討をお願いしなければならない。いずれにしても学会の企画や運営に対する地方会の役員各位を始めとする会員各位、特別報告の講師、シンポジウム演者、一般報告と特別報告の座長等の各先生方の御協力御支援に心から感謝の意を表すとともに、準備運営にあたった教職員諸君の労も労いたい。



(一般演題発表)



(会場風景)



(小野雄一郎先生)



(シンポジウム)

# 第42回労働衛生史研究会

竹内 康浩 (名大医衛生)

研究会は11月15日に名大鶴友会館で開催され、36名の参加者があった。今回は東海地方会の発足60周年を記念して、井上 俊先生(名大名誉教授)が「東海地方における労働衛生の展開」、奥谷博俊先生(名市大名誉教授)が「60年を振り返って－エピソードを中心に－」、柏木正雄先生(元トヨタ自動車産業医)が「自動車工業における労働衛生の展開」、小森義隆先生(大同産医研)が「大同病院を中心とした労働衛生の展開」と題して、それぞれの立場から特別講演された。いずれも当時中心的に活躍され、東海地方会の隆盛に貢献された先生方で、参加者に歴史の教訓と新たな感銘を与えられた。一般講演としては野村 茂先生(労研)の「緒方正規先生と労働衛生」、堀口俊一先生の「Roert Kehoeと鉛中毒」、吉野貞尚先生(前旭労災病院)の「アメリカのじん肺の歴史」、松藤 元先生(労研)の「ソ連で珪肺に罹患した日本人俘虜」の4題が発表された。いずれの先生もその分野に造詣の深い方で興味深い発表であった。



(井上 俊先生)



(奥谷博俊先生)



(柏木正雄先生)



(小森義隆先生)



(野村 茂先生)



(堀口俊一先生)



(三浦豊彦先生)



(吉野貞尚先生)



(松藤 元先生)

## 新 刊 紹 介

### 「健康夜話」－健康は自分で守れるか－

近藤 東郎著 (前日本産業衛生学会理事長)

産業医学の研究歴40余年を通して著者が生涯のテーマとして求め続けた「健康は自分で守れるか」という問いかけ。

本書は労働者をはじめ多くの人々との温かくも感動的なふれ合いの中で、さりげなく人生を語り、その幾コマかを爽やかなエッセイとしてまとめられたものである。

この書を一読した人々の心に投影されてくる、しみじみとした情感と行間ににじんだ著者独特のアイロニーに触れることは楽しいことである。

日本産業衛生学会理事長 島 正吾 「推薦のことば」より

定価1,000円

(ご購入は、第70回日本産業衛生学会(富山)書籍販売コーナーでお買い求め下さい。)

### 「見えない人 見にくい人のリハビリテーション」

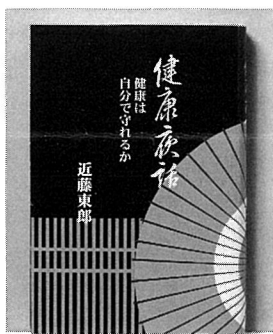
高柳 泰世・愛知視覚障害者援護促進協議会編

この本は、視覚障害者援護講習会用にテキストとしてまとめたもので、愛知視覚障害者援護促進協議会発足15周年を記念して出版されたものである。

視覚障害者の方々に対する眼科リハビリテーションに始まり、福祉制度の説明、視覚障害者との接し方等、実践的かつ具体的な内容で構成されており、視覚障害者の社会復帰を目指してお役に立てれば幸いです。

(編集部)

発行所：名古屋大学出版会 定価：2,500円



## 特別寄稿

### 産業歯科について



#### 金山 敏治

(愛知学院・歯・口腔衛生)

労働安全衛生法における「産業歯科医」の職務は、有害な酸取り扱い業務に従事する労働者を対象とし、しかもその業務に50人以上という極めて限局的・消極的な職務となっています。

しかし労働省は、1988年にTHPの中に「口腔保健」という言葉を登場させ、歯牙酸蝕症など特殊な歯科疾患しか取り上げられてこなかった労働安全衛生法にはじめて「口腔保健」が現れましたが、これは産業歯科医が行うようなものでなく、産業保健指導者等の行う保健指導の一部で、歯科関係者の直接の関わりを認めるものではありませんでした。

行政の姿勢は現在も「口腔保健」は産業保健指導者等が行うものでそれ以上のものではない、としています。

これからの口腔保健について

ここ数年、比較的ゆとりのある企業では歯科医師が関与する形で歯科保健活動が行われるようになってきました。

これらはTHP活動の一貫としてではなく、自主的な労働福祉事業として行われていますが、多くの企業はこれをTHP活動として位置づけているようです。

現在の産業保健は職業病予防、労災防止だけではなく、労働者の健康を積極的に求めるものとなっています。

1996年1月、中央労働基準審議会は労働大臣に対し「労働者の健康確保対策の充実強化について」という建議を行い、その中で「歯周疾患に関する健康診断については、事業場においてその機会が提供されるのが望ましいこと」とする記述がなされました。

歯周疾患の療法は、一般に理解されにくいメンテナンス処置が主で、その対策は、治療よりも予防が必要という事情と、過労により引き起こされる口腔の不快感が、全身の行動に影響を与える作業関連疾患として、歯周疾患を意識したものと思われる。

産業保健のTHPを発展させていく方向として、口腔保健は異質のものと言えない状況になってきています。

#### 産業歯科医研修会について

産業歯科医の育成は日本歯科医師会・産業医学振興財団主催で昭和48年より毎年、東日本、中部日本、西日本の3会場で基礎コースを実施し、研修会受講者を日本歯科医師会認定産業歯科医としています。

更に基礎コースを受講した希望者に年1回、職場巡視などの実地研修など含む上級（アドバンスト）コースも実施し、このような時代に対応しています。

## 話題

### 結核予防法の改正



#### 五藤 雅博 (旭労災病院)

最近、結核予防法に関わる結核活動性分類や結核医療基準の改正が行われました。紙面の都合上、改正の詳細は別の成書その他をご覧いただくこととして、じん肺診療を行っているものとして、今回の改正についての感想を述べさせていただきます。

結核活動性分類の改正は、平成7年12月26日発の「結核予防法による登録及び管理検診実施要領の一部改正について」という厚生省保健医療局長通知の中に、また結核医療基準の改正は、同日厚生省告示第213号「結核医療の基準」という形で出されました。

従来の活動性分類は、胸部X線所見を重視して分類がなされておりました。すなわち昭和35年に改訂された結核病学会病型分類を基本とし、臨床所見、細菌学的所見も併せて総合的に判断されておりました。じん肺法では、今後法律改正が行われない限り、現在でもこの分類を用いることになります。ところが今度の活動性分類は、結核菌検査結果を中心とし、感染危険性を重視したもので、結核菌の排菌が陽性か陰性かが特に問題とされています。しかしながら、臨床症状や胸部X線所見も併せて総合的に判断することは従来通りで、私は分類方法が異なるだけで、実際上はそれほど大きな混乱はないと思います。しかしこれから肺結核を勉強する先生は、新しい活動性分類を使用されるでしょうから、じん肺診療においてだけ

古い分類でというわけにはいかなくなると思いますので、何らかの対応はすべきだと思います。

特記すべきは非定型抗酸菌症の明確な位置づけがなされたということです。従来は肺結核に酷似した疾病であり、臨床上もしばしば混乱しておりましたので、慣習的に結核と同様に扱ってきましたが、法的には明確に記載されておらず、公費による治療を行うのに若干のうしろめたさがありました。今回の改正ではその位置づけが明確になり、肺結核と同様、公費による治療ができるようになりました。一方じん肺法では非定型抗酸菌症を合併症として認めておりません。従ってじん肺患者で、非定型抗酸菌症が合併した場合、労災医療ができないということになります。これが意外に患者及び医療機関を混乱させます。実際、じん肺診療の中でも、肺結核と非定型抗酸菌症はしばしば混乱しますので、今後の問題として、労災医療の中での非定型抗酸菌症の位置づけについて議論すべきです。

結核医療基準の改正については、初回標準治療方式を見直したことが主で、じん肺診療上も参考になるものです。治療期間については、「じん肺等結核の経過に影響を及ぼす疾患を合併する場合には、患者の病状及び経過を考慮して治療期間を修正する。」とありますので、ケース・バイ・ケースで判断するのは、従来どおりです。ただじん肺に肺結核が合併した患者の治療期間（数十年におよぶものもある）や、INH単独で治療していることの妥当性については、今回の改正以前からの問題ではありますが、あらためて考えさせられます。

じん肺患者にとって肺結核が大変恐い病気であるとは、今も昔も変わりません。しかし肺結核に対する医療の進歩や、それに伴う結核予防法の改正などが行われている現在、肺結核を合併したじん肺患者の労災医療について、再度検討する時期が来ているように思います。

### 会員の表彰

#### 労働大臣功績賞

- 花井喜一郎 (イビデン)
- 服部於菟彦 (愛知県医師会)
- 竹内康浩 (名大・医・衛生)

### 学会研究会

#### 第36回 日本労働衛生工学会 第17回 作業環境測定研究発表会

吉田 勉 (聖隷健診センター)

第36回日本労働衛生工学会は、平成8年10月30日(木)~10月31日(金)に名古屋国際会議場で、小森義隆先生が実行委員長で約300名の出席で開催された。10月30日には、本間克典先生の司会で「作業環境における空気管理技術」というテーマでシンポジウムが行なわれた。これは5名のシンポジストにより、途中休憩をはさみながら3時間以上にわたり熱心な討論が行なわれた。一般演題は2会場に分かれ41題の発表があった。

これに引き続き10月31日(金)の午後から11月1日(土)の期間にわたり第17回作業環境測定研究発表会が同じく小森義隆先生のお世話で、約250名の出席で開催された。

10月31日の午後から、フォーラムが「企業経営と作業環境測定」をテーマにして開催された。

#### 第6回 産業医・産業看護全国協議会

谷脇弘茂 (保衛大医公衛)

本協議会は、平成8年11月11日(月)に、米子市の鳥取大学医学部記念講堂(企画運営委員長:中山英明先生)において開催された。今回は、「健康支援をめぐる専門性とチームワーク」というメインテーマで、午前中は「産業保健におけるProfessionals」という演題で、産業医大前学長の土屋健三郎先生からbioethicsとProfessionalsの関連性について講演があった。また午後からは、産業医部会及び産業看護部会が総会を開き、その後「労働安全衛生法の改正をめぐる」と題したシンポジウムが開催された。ここではまず改正法のねらいについて、労働省労働基準局労働衛生課長より講演があり、続いて産業医、産業看護婦、衛生管理者、地域産業保健センター医師の立場から、改正法に関する考え、今後の取るべき方針等につき講演があった。講演後の質疑応答では、労働衛生課長に対する質問が集中し、受講者の法改正に対する関心の強さが感じられた。

#### 国際労働衛生会議に参加して

市原 学 (名大医衛生)

今年の9月、スウェーデンで行われた国際労働衛生会議に参加した。私にとって初めてのスウェーデンへの訪問であった。スウェー

デンに関する知識としては、留学を経験されている2人の先生(小野雄一郎先生、柴田英治先生)からわずかに聞いているだけであった。学会一日目は、国王のあいさつの後、何人かがあいさつをした。ある女性が雇用などの経済的な問題をふくめた労働問題の解決を訴えた。照らされたライトが異様に顔の陰影をつけている。女性としては声が比較的低く、話の調子も重々しい。問題がいかに深刻であるか、ということ表現したいようであった。プログラムを後からよく読むと、その人は労働大臣であるということがわかった。女性が労働大臣をしている、ということはこの国で女性が果たす大きな役割を象徴している。学会の参加者の構成から判断すると北欧では女性の研究者が非常に多いように見える。日本にもすぐれた女性研究者がいることを私は知っているけれども、その数は北欧に比べるとまだ少ないかもしれない。

学会開始の前日、ストックホルムの街を歩いた。喉がかわいたので喫茶店へはいろいろとした。ところが日本(特に名古屋)、イタリア、フランスの都市に比べ喫茶店が少ない。一番の繁華街といってもそれほどにぎやかというわけではない。商店街を歩いても購買意欲がそそられない。ガイドブックによるとストックホルムは、経済論理等に左右されずに理想をかかげて作った近代都市であるらしい。

旅の途中多くの親切な人に会った。ストックホルムに着いた夜、道にまよっていると学生風の女性が3人寄ってきて道を教えてくれた。さらにホテルに行く途中、何人もの人に道を尋ねると皆親切に教えてくれた。ただし、その都度教えてくれる内容が少しずつ違っていたために、なかなかホテルにたどりつけなかったのではあるが。

### これからの諸行事予定

日本産業衛生学会 第30回中小企業衛生問題研究会

日 時:平成9年2月1日(土) 9:30~17:00

場 所:名大医学部鶴友会館

担当世話人:竹内康浩(名大医衛生)

第10回 振動障害研究会

日 時:平成9年2月15日(土) 13:30~16:30

場 所:勤労会館・特別会議室(4F)

第12回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会

日 時:平成9年2月21日(金) 10:00~16:40

場 所:産業技術記念館

会 費:8,000円(資料・昼食費を含む)

第1回職域肺疾患管理研究会

期 日:平成9年3月8日(土) 14:00~16:30

場 所:名大医学部 会議室(基礎研究棟2F)

講 演

「肺結核および非定型抗酸菌症の診断・治療について」

(藤田保健衛生大学第2病院内科)

討 論

「職域における結核管理の考え方と事例について」

1. 我が国における結核の発生状況とその予防対策

—結核予防法改正の要点も含めて—

端谷 毅(豊明保健所)

2. 職場健診で発見された肺結核症例とその事後指導

加藤保夫(岐阜県産業保健センター)

3. 瀬戸地方におけるじん肺合併肺結核症例とその頻度

五藤雅博 (旭労災病院)

世話人: 立川壮一、吉野貞尚、加藤保夫

第70回 日本産業衛生学会・特別研修会

会期: 平成9年4月9日(水)~12日(土)

会場: 富山県民会館、富山市民プラザ、富山県農協会館

事務局: 〒930-01 富山市杉谷2630

富山医科薬科大学医学部公衆衛生学教室

TEL (0764)34-2281 (内線2376) FAX (0764)34-5023

平成9年度 日本産業衛生学会東海地方会研修会・総会

日時: 平成9年6月13日(金) 10:00~16:30

場所: 浜松駅前 アクトシティ内

楽器博物館 研修交流センター 6F

[17:00~オークラアクトシティ浜松30Fで懇親会]

東海地方会員異動

新入会

- 愛知 ①山本 光司 (山本歯科) ②山川ひさえ (三井海上)  
 ③水野 理文 (川崎製鉄(株)知多) ④小川 一成 (小川歯科)  
 ⑤浅井 昭博 (愛知学院大歯学部) ⑥杉田かをり (三菱重工小牧南) ⑦長谷川 伸 (長谷川歯科) ⑧井上 辰樹 (名市大衛生) ⑨安藤 晃禎 (三菱電機名古屋製作所)  
 ⑩佐藤 孝一 (名古屋市私立大学医学部第2内科)  
 ⑪山田 宏 (名古屋大学工学部) ⑫村田健三郎 (名古屋市立大学医学部衛生学) ⑬鈴木マリ子 (山崎製パン安城工場) ⑭宮村 耕一 (日本たばこ) ⑮小川 克仁 (日本たばこ) ⑯堀 容子 (名大医療技術短大)

静岡

- ①鈴木 康仁 (鈴木歯科)  
 ②片岡 咲子 (本田技研工業)

岐阜

- ①竹内 好雄 (竹内歯科) ②松本 俊廣 (金山町国保病院)  
 ③広瀬 玲子 (岐阜県産業保健センター)

三重

- ①中道 雅 (中道歯科)

退会

- 愛知 ①稗田 信之 (日本油脂(株)豊) ②片岡 二郎 (片岡医院)  
 ③生野 忠徳 (豊田健康管理クリニック) ④加藤 兼房 (愛知県心身障害者コロニー) ⑤金子 巨弘 (明治生命)

- ⑥古谷 雅秀 (NTT名古屋) ⑦山田 均 (藤田保衛大  
 学) ⑧鈴木 貞夫 (愛知医大公衆衛生) ⑨稲田 明孝 (日本たばこ)

岐阜

- ①日江井恵次 (本巣町診療所)

三重

- ①高橋 務 (近畿健康管理センター三重)

転出

愛知

- ①横井 豊治 (国立名古屋病院)……近畿地方会へ  
 ②鶴飼弥英子 (藤田保衛大医公衛)……関東地方会へ

地方会理事会

平成8年度第3回東海地方会理事会

日時: 平成8年9月10日(火) 14:00~16:15

場所: 名古屋大学医学部鶴友会館2F大会議室

出席者: 38名 委任状: 32名

1. 報告事項

- (1) 事務局からの連絡事項 (小野)  
 (2) 本部からの連絡事項 (島、竹内)

2. 協議事項

- (1) 平成8年度東海地方会学会 (山内)  
 (2) 地方会関連学会・研究会  
 (3) 地方会ニュース第38号 (吉田)  
 (4) 労働基準局からの資料紹介 (宇野)  
 (5) 平成7年度版地方会誌 (山田)

平成8年度第4回東海地方会理事会

日時: 平成8年11月5日(火) 14:00~15:20

場所: 名古屋大学医学部鶴友会館2F大会議室

出席者: 40名 委任状: 33名

1. 報告事項

- (1) 事務局からの連絡事項 (小野)  
 (2) 本部からの連絡事項 (竹内)  
 (3) 関連学会・研究会  
 (4) 愛知産業保健推進センター (小河)

2. 協議事項

- (1) 平成8年度東海地方会学会 (山内)  
 (2) 関連学会・研究会  
 (3) 第12回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会 (五藤)  
 (4) 東海地方会総会・研修会 (鎌田)  
 (5) 地方会ニュース第39号 (吉田)  
 (6) 労働基準局からの資料紹介 (宇野)

財団法人 愛知健康増進財団

会長 松永 亀三郎  
 理事長 赤塚 邦夫  
 診療所長 小倉 幸夫

名古屋市北区清水1-18-4 TEL(052)951-3331



愛知集団検診協会 愛知健診所

〒496 津島市藤里町2-3-1  
 TEL (0567)26-7328番  
 FAX (0567)26-7994番



天野産業株式会社 トータルヘルス研究所

代表取締役 宮本 政雄

〒461 名古屋市東区泉二丁目21番11号  
TEL(052)931-0102(代表) FAX(052)931-0104

労働大臣認可 オリエタル労働衛生協会

会長 鈴木 正雄  
 理事長 大武 八郎

名古屋市千種区今池一丁目8番4号  
TEL (052) 732-2200



謹賀新年

平成九年元旦

労働安全コンサルタント (労働大臣登録 化 第68号)  
 労働衛生コンサルタント (労働大臣登録 工学 第56号)



有限会社 柏木コンサルタント

〒471 豊田市野見山町1丁目102番地7  
TEL (0565) 88-5488

- トータル・ヘルス・プロモーション・プラン (T・H・P)
- 作業環境測定 ● 各種検診業務

財団法人 岐阜県産業保健センター

理事長 籠橋 久衛  
 多治見市東町1丁目9番地の3  
 TEL(0572)22-0115

財団法人 芙蓉協会 聖隷沼津第一クリニック 聖隷沼津健康診断センター

所長 積 惟貞

〒410 沼津市本字下一丁目田 895-1  
TEL(0559)62-9882 FAX(0559)52-1019

(社福) 聖隷福祉事業団 聖隷予防検診センター

所長 水野 武郎

〒433 浜松市三方原町3453 TEL(053)439-1111

編集後記

明けましておめでとうございます。昭和59年にこの地方会ニュースが創刊されて今年で丸13年。よちよち歩きを始めて中学生になったという感じです。定期的にこれだけきちんと発行できたということは並々ならぬ編集委員諸氏の努力もさることながら、会員諸兄弟のご援助の賜物にはかたじけありません。今年もどうかよろしく願い申しあげます。昨年は、薬害エイズ問題、病原性大腸菌O-157による集団食中毒、老人福祉施設の厚生省トップをまきこんだ汚職事件と、どうも我々保健に携わるものとしてはあまりよい年ではなかったようです。労働衛生についてはどうでしたでしょうか。安衛法の改正が今年の大きな課題の一つになりそうです。今年も健康に気をつけて元気に頑張りましょう。

(岩井 淳)

次回発行 平成9年5月1日

編集責任者 吉田 勉(聖隷健診センター)

編集委員(五十音順)

- 井谷 徹(名市大) 市原 学(名大)
岩井 淳(全日本労働福祉協会) 大久保浩司(東芝四日市)
加藤 保夫(岐阜県産業保健センター) 鎌田 隆(本田技研浜松)
後藤 猛(労働衛生コンサルタント) 五藤 雅博(旭労災病院)
榊原 久孝(名大) 清水 高子(清水ヘルスケア)
高柳 泰世(本郷眼科) 谷脇 弘茂(藤田保健大)
松本 忠雄(刈谷保健所) 山田 琢之(愛知医大)

社団法人 瀬戸健康管理センター
理事長 成田 鈺一
〒489 瀬戸市共栄通1丁目48番地
TEL(0561)82-6194 FAX(0561)85-2466

健診健康総合サービス
(財)全日本労働福祉協会東海支部
支部長 福島 忠良
〒457 名古屋市南区柵下町2-4 TEL(052)822-2525

GHL 社団法人 加茂医師会立
総合保健センター
〒505 美濃加茂市西町7丁目169番地
TEL(0574)26-1718 FAX(0574)25-0480

(医) 宏潤会大同病院
理事長 石原 晃
院長 西脇 洋
〒457 名古屋市南区白水町9番地 TEL(052)611-6261

労働大臣許可
KKC 財団法人 近畿健康管理センター
三重 〒514 津市神戸165 名古屋 〒464 名古屋市千種区2-15-12
事業部 TEL(0592)25-7426(代) 事務所 TEL(052)735-0821 ワークビル4F
FAX(0592)25-7779 FAX(052)735-0823

(財)日本予防医学協会
健康社会フォーラム名古屋談話室
〒461 名古屋市東区代官町39-18 日本陶業連盟ビル内
TEL(052)931-0526 FAX(052)932-7092

医療法人 光生会病院
豊橋市吾妻町137番地

(社福) 聖隷福祉事業団
聖隷健康診断センター
所長 臼田多佳夫
〒430 浜松市住吉町2-35-8 TEL(053)473-5501

名古屋市医師会協同組合
名古屋市医師会健診センター
理事長 高澤 嘉人
〒461 名古屋市東区葵一丁目4番38号
TEL(052)937-8460 FAX(052)937-8402

医療法人 名翔会
名古屋セントラルクリニック
〒457 名古屋市南区城下町3丁目14番地
TEL(052)821-0900(代) FAX(052)824-0655



謹賀新年

平成九年元旦

医療法人 九愛会
中京サテライトクリニック
理事長 黒田 義孝
〒470-11 愛知県豊明市西川町島原6番地の7
TEL(0562)93-8225(代) FAX(0562)93-0938

医療法人 東海産業医療団
中央病院
健康管理センター
〒476 東海市荒尾町丸根1番地
TEL(052)603-2271 FAX(052)603-5122

(財)東海検診センター
理事長 宮崎 勤治
診療所長 斉藤 俊二
〒410 沼津市新沢田町8-7 TEL(0559)22-1157
FAX(0559)23-5078

(医) 豊昌会
豊田健康管理クリニック
理事長 加藤 昌平
〒473 豊田市竜神町新生155番地 TEL(0565)27-5550

医療法人
日本生命ヘルスコンサルタント
所長 原 爽
〒450 名古屋市中村区名駅南1-27-2
日本生命笹島ビル6F
TEL(052)582-0751

(財)三河保健予防協会
理事長 由利 卓也
〒442 豊川市大堀町77 TEL 05338-6-1515